

# 第2回わくわくフリーマーケット



中川原  
ふれあいセンター  
7月23日(日)

## ふくろう新聞

<発行>  
特別養護老人ホーム郷会  
淡路ふくろうの郷会  
広報委員会  
洲本市中川原中川原28番地1  
TEL: 0799-25-8550  
FAX: 0799-25-8551  
ホームページ  
<http://hyoufuku.main.jp/fukuro/>

### ・・・地域おこしの風物詩へ・・・

「7月開催は暑いで。出店者もお客さんも参ってまうわ〜」「ほんなら中でやるか!」というやりとりからスタートした第2回わくわくフリーマーケット。室内中心なので店舗数も限定されましたが、蓋を開けてみると前回より多くの方にご来場いただきました。1回目の反省を生かし洲本市内の小・幼・保育所にも開催を呼びかけ、その効果もあつてか今回は特にお子さんの来場も多く見られました。

ふれあいセンターとしても連合町内会はじめ大勢の地域の方の協力のもと、前回よりも多くの催し物を開催(流しそうめん、かき氷、カレー、喫茶コーナーなど)できたのも大きな収穫の一つです。

地域住民とともに取り組んでいるこのフリマ。これからも継続し行うことで「地域の風物詩」となるよう進めていきますので今後もご支援・ご協力のほどよろしく願っています。

(中川原ふれあいセンター管理者濱田)

久しぶりにふくろうの郷にツバメがやってきて、かわいいヒナが孵った今年、頑張ってきたことが実を結びつつあります。短期入所事業の再開が見えてきたこと、また、神戸の新しい施設づくりも補助金申請を行うとともに神戸施設建設委員会を中心にした募金活動も進みつつあります。中川原では田んぼの稲穂も美りを見せ始めました。どちらも豊作となりますように。

### 縁日の屋台を楽しむ ふくろうの郷 BBQ 大会



▲縁日を楽しんだバーベキュー大会

7月1日(土)ふくろう BBQ 大会がありました。前日とはうって変って当日は汗ばむほどの天候に恵まれました。

今年の BBQ 大会は縁日の屋台をイメージし、かき氷、串揚げ、お好み焼きなどの食べ物を用意し中川原地域の方から借りた子供みこしを置き、お願い事を書いた七夕の短冊を飾り祭の雰囲気も楽しんでいただくことができました。当日協力いただいたボランティア、地域の方ありがとうございました。

(生活援助員 浦手寛仁)



(生活援助員 神代雅司)

「おいしい、おいしい」と箸がとまらない入居者

巨大な  
流しソーメンに  
食欲全開

今年もふくろうの郷地域交流

会の方に前日から竹の切り出し、節取りと熱い中頑張つて準備いただき巨大なソーメン流しを作っていました。

7月16日日本番、みなさん、いっつもまして食欲旺盛で、何度もすくって食べ、「たくさん食べたい」と満足気味でした。食を進めてくれるための雰囲気の大切さを再確認できた一日でした。

# ふくろう物語 谷口 忠男さん

## 50年の活動の 締めくくりに

谷口さんは昭和10年6月16日生まれ、香川県出身の81歳です。以前は彫刻の仕事をしており、手先がとても器用でした。また、当施設に入居されている旅田ご夫妻と高等部の時から付き合ひがあり、買い物に出掛ける際、谷口さんが車で送迎をするなど面倒見の良い方だったそうです。谷口さんは仕事に励む傍ら、

ろうあ運動にも精を出されてきました。香川県の聴覚障害者協会での活動にとどまらず全国の高齢部長等を歴任される全国各地へろうあ運動に関する講演をしたり、海外に視察されるなど、幅広く活動をされてきました。その活動歴は50年にも及ぶそうです。

ふくろうの郷に入居される前は、香川県の施設で生活をされてきました。そこでは手話を通じず意思疎通が困難なため、伝わらないもどかしさから職員に対し立腹されることがたびたびあり、関係作りがうまくいきませんでした。その後、以前からふくろうの郷での生活を希望されていたこともあり、平成29年6月にふくろうの郷へと入居するに至りました。

ふくろうの郷での生活は入居されてまだ日が浅いため、職員や他入居との関係作りを、日々継続して行っています。初めは不安そうな表情をされていた谷口さんも、他入居者と手をつないで談笑したり、散歩をしたりするなど少しずつ周りとも打ち解けることができ、笑顔で過ごされる時間も増えてきています。

現在の課題は、谷口さんは香川県の手話で話されるため、ふくろうの郷の職員でも時折手話を通じない時があることです。そのため分からない手話は同じ香川県出身の旅田さ

▼各地で講演をする若かりし頃の谷口さん



▲書道講座で持ち前の器用さを発揮!

### 新しい先生を迎え笑顔で書道を

んに教えてもらい、職員同士で共有をして覚えるようにしています。今後は谷口さんとのコミュニケーションの幅を



ることになり、相談しながら講座の進め方・内容をより良いものに、入居者の学びの場・毎月の楽しみ場の場となるよう努めていきたいと思えます。(生活援助員 船越愛)

▼熱心に手ほどきを受けています



7月の書道講座は南あわじ市津井の寂光山金岳寺住職の真鍋圓隆さんという方が書道講座の先生としてボランティアで来て下さいました。神戸のサークルにも参加されておられ、最初のあいさつでユーモアたっぷりに話をして下さり、入居者の表情もほころび、笑顔で話を聞いておられました。ん張り切っておられました。

今後毎月来てくださ



手話で自己紹介する  
真鍋圓隆さん

みんなの願い事

- 病気で通院頑張る 広島 彰
- 明日も健康でおりたい 西内 千鶴子
- 自治会長をがんばる 黒崎 時安
- 魚釣りに行きたい 濱田 隆次郎

7月5日毎年恒例の厚浜芸能保存会の方々が来所されて踊りの披露と七夕飾りを作って下さいました。入居されている方も一緒に踊り、炭坑節を踊られ、昔のお祭りのことを思い出されたのか、色々話をして下さいました。

踊りの後、入居者のお願いごとを書いた短冊を、願い事がかないますようにと思いを込めて笹に飾りました。(相談員 酒井裕子)



玄間に飾られた天井まで届く七夕飾り

中川原町二ツ石の「大照寺」で行われている「きゅうり加持」に参加させて頂きました。

きゅうりを持参し、ふくろうの郷の入居者が夏の暑さを乗り切り、健康で暮らせるようにと願いを込めて祈願してきました。

大照寺では、ご詠歌を詠っており、お寺の方からきこえない入居者の皆さんにもご詠歌を感じていただけるようにと、歌に合わせた振り付けを

地域を歩く  
大照寺「きゅうり加持」

一緒に踊る機会を作ってください、参加者はゆったりとした動きを気持ちよさそうに体で表現し、ご詠歌独特の節を体で感じる経験ができました。

今回お世話になりました大照寺の皆様、二ツ石地域の皆様、そして地域交流会の皆様、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。今年度の夏の暑さを乗り切り、また来年もお参りに行きたいと思いま

す。  
(生活援助員 神代 雅司)

「きゅうり加持」は毎年土用の丑の頃に行われます。夏の暑い時期を無病息災に過ごすために行われる祈禱で、弘法大師空海がきゅうりに病気を封じて病氣平癒を祈願した事から始まったと言われています。



▲ゆったりした動きのご詠歌をおしえていただきました



▲立派なお寺の鐘や仏像に魅入る入居者

新人職員フォローアップ研修

今年度採用の新人職員10名を対象に7月7日フォローアップ研修を行いました。事前にアンケートをとり、不安に思うことや、課題を明確化するとともに、課題解決に向けてどのように取り組むかを目的に研修を行いました。

多く出ていた課題は、手話を覚えるのが難しいということでした。個人で手話奉仕員養成講座に通うなどの努力とともに、先輩職員から教えてもらっている、入居者が教えてくれるので頑張りたいという声もありました。また分からないことは先輩職員に気軽に聞ける関係はできているとの声も聞きました。各職場で指導ができていくことで嬉しい声でした。

今後、新人職員からは手話習得や、資格取得を頑張りたいなど、積極的な目標が出されていきました。それを実現するため、これからも継続して、フォローアップを続けていく予定です。(生活相談員 竹原哲章)

**淡路聴覚障害者  
センター便り**

洲本市港 2-26  
洲本市健康福祉館 3階

**「ナチュレ神戸」見学  
野菜の生産・販売・加  
工を手広く**

7月8日(土) 社会見学  
で、神戸市西区にあるNP  
O法人ソーシャルサポート  
ひょうごの「ナチュレ神戸  
(就労継続支援B型)」の見  
学をさせて頂きました。  
農業を主たる事業として  
行っている施設の見学とい  
うことで、おのころの家で同  
様の農業をしている通所者  
も興味を持って参加しまし  
た。

「ナチュレ神戸」では、野  
菜の生産・加工・販売や地域  
の契約農家さんで、ボランテ  
ィアの方と一緒に農作業の  
お手伝いをするなどの農業  
関係と委託事業の部品の袋  
詰めやシール貼りの作業を  
行っています。12名の方が通  
所されています。職員の説明  
に参加者からは「工賃はいく

**「全国手話言語市区長会」に淡路  
市に次いで南あわじ市も加入**

全国の自治体で手話言語条例の制  
定が進んでいます。これに合わせ「全  
国手話言語市区長会」が発足され、  
2017年6月現在では全国で321市区  
長が会員となっています。

淡路島内では、2016年4月「手話  
言語条例」が施行された淡路市が加入  
し、次いで現在条例はまだできていま  
せんが、南あわじ市も今年度に入り加  
入しました。今後の南あわじ市の手話  
言語条例の動向にも注目です。



▲「ナチュレ」で職員の説明に参加者から質問が相次ぎました

ら「送迎はあるのか」「グル  
ープホームでの生活費はいく  
らくらい必要」など質問が多  
数寄せられました。施設での  
説明の後、車で10分ぐらいの

ところにある農園を見学し  
ました。さつま芋・万願寺と  
うがらし・すいかなど様々な  
野菜を育てていました。さつ  
ま芋は焼き芋にして行事の  
時に販売され人気商品との  
ことです。  
午後は日本一の酒米とし  
て知られる山田錦の郷を見  
学しました。  
参加者の西本薫さんから  
は「僕の通所しているおのこ  
ろの家では玉ねぎを中心  
に作っているが、色々な野菜を  
育てて凄いなと思いました。こ  
れから色々な野菜を育てて  
みたい」と感想がありました。  
(センター長 川道孝子)

**障害福祉サービスの充実を目指して**

**第4期洲本市障害福祉計画策定委員会**

洲本市では、第4期障害福  
祉計画が平成29年度で終了  
することから、第5期に向け  
ての策定委員会が始まりま  
した。この計画は各年度にお  
ける障害福祉サービス等の  
必要量の見込み、確保のため  
の方策を検討するものです。  
福祉関係施設、病院、支援  
団体等から18人委員が選ば  
れています。聴覚障害者団体  
代表として、センター相談員  
の私、の吉川稔も選ばれ、計  
画、策定に参加することとな  
りました。

第5期の計画策定にあた  
っては、現在のサービスの  
利用状況や今後のニーズに  
ついて、障害者、障害児に  
分けてのアンケートを実施  
することとなっています。

参加した委員からは、「65  
歳以上の障害高齢者が増え  
ている。介護保険との関係  
もあり、18歳以上とは分け  
ての調査も必要。精神障害  
者への調査は、まず相談支  
援事業所への連絡もしてほ  
しい」等たくさん質問や  
要望が出されました。



アンケートは8月頃から  
実施予定です。内容につい  
てわからない場合は気軽に  
センターにご相談ください  
(相談員 吉川 稔)

### 中川原高齢者・障がい者地域 ふれあいセンター



〒656-0002  
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2  
TEL 0799-28-0990  
FAX 0799-28-0992

### 利用定員14名拡大し、 経営の安定に努める

4月よりデイサービスセンター「桜ヶ丘」の利用定員数を14名に拡大しました。  
介護保険の財政が厳しいとの理由で、今年度より要支援者切り捨ての方向に動いています。市によっては、要支援者の報酬単価が引き下げるところがあります。それを受けて、昨年度までは定員数10名だったのを14



名に拡大し、収入の安定に努めています。しかし、定員数に拡大しても職員が増えるわけではないので、きちんとご利用者様一人ひとりにサービスが行き渡るように工夫が必要です。定員数を14名に拡大したことで、以前から週2回利用したいが、満員のため、週1回しか利用できなかった方に早速お声掛けし、2名が週2回ご利用できるようになりました。また、以前に利用希望のご連絡を頂くも、満員の為にお断りせざるを得なかった方に連絡するなどしていま

7月より新規利用の方1名増えました。手芸が好きな方で、週2回デイサービスに通い、手芸や他のご利用者との会話を楽しまれています。(稲井)

### 〜新職員の紹介〜

介護の仕事は初めてで、不安だったのですが、デイサービス桜が丘に来られる皆さん、元気いっぱい、色々な話を聞かせていただいたりと、楽しく仕事させてもらっています。皆さんには、ご迷惑をかけることもありませんと思いますが、よろしくお願いたします。(花畑優子)



## 中川原わくわくフリーマーケットが無事に開かれました!!

地域の方の協力のもと、前回よりも多くの催し物「流しそうめん・カレー・かき氷・喫茶コーナー」等が実施されました。【7/23(日)：中川原ふれあいセンターにて】



流しそうめん

カレーコーナー

かき氷

喫茶コーナー

## 〜神戸市聴覚障害者福祉施設建設推進委員会の今・・・〜

建設推進委員会は4月に決起集会。6月から建設に向けた募金活動の理解を広げるためオルグをスタートしました。

まずは神戸市内の聴協、サークルから申し込みにより、順次、2、3名の委員が回っています。なぜ施設が必要か、どんな事業をするのか、建設費用は、募金目標額は、などの情報を提供し募金活動への理解を広めます。今後は県下各地へもいきます。

先日は淡路へも行き、多数の参加者にお話をしました。また、同委員会事務局でもイベントや講演会等の企画を進めています。

一方、当事者、有識者、関係者、行政による「神戸市における聴覚障害者福祉拡充のための検討会」が8月5日からスタートします。神戸市への聴覚障

害者福祉施策の提言が目的です。

神戸ろうあハウス 野村洋子



淡路でのオルグの様子

# 続々・地域を語る 中川原むかし話

かるた 口説き NO35

北岡 肇

## むしろ打ちの名人 親孝行の多吉さん

先山の麓に、信恭さんという人が住んでいました。信恭さんは大峯山行者尊の信者で、「先達」の免状をもっていました。淡路はもとより各地から登山、参拝者から先達として依頼がありその都度、信者・参拝者を引き連れて先達、大峯山へと出向いていました。

家には信恭さんの妻と一人っ子である、「多吉」と二人で秋には稲を獲り、初夏には麦を収め、働き役の黒牛と昼と夜を惜しみなく働き暮らしていました。

夜になると、お母(かあ)が、筵のたて糸となる細縄をぬい、多吉さんは庭の片隅においてある筵打ち器の前に座り、筵の芯になる細縄を通してこしらえ、横にあんでゆく稲ワラを1〜2本通して筵つちでとんとんとしめて手間

ひまの掛かる作業で一枚を仕上げるのに約半日がかりと言われていました。出来上がった筵は家の前に置いて、近所近在の人が買い求めて行きました。多吉さんの打ち筵は丈夫で立派で使いやすくて長持ちするという評判で、すぐに売り切れてしまいました。(筵は畳一枚の大きさで、農作物を乾燥するのに使われていました。現在ではビニールの布が普及し筵は姿を消しむかしの面影となりつつある。ただ機械打ちの筵が店頭販売されている)

多吉さんの打った筵が評判となり「筵うちの名人」としてあがめられ、父親不在の母を助け、考養を尽くして、日夜両親に仕えて村人から感嘆せぬものなかりき・・・と近郷近在に知れ渡ったという。

この評判、多吉の考養が、かくて上代稲田九郎兵衛の知るところなり、「一尺五寸」(約45センチ)の木板に表彰文を祀られて下賜された。下賜された表彰文の木板を信恭さん宅の門戸に飾りいついつまでも「筵打ちの名人・多吉さん」としてつたえられたそうである。

## ふくろうの郷見学予定

- 8/2 (水) 神戸女子大学手話部「翼」様 (8人)
- 8/7 (月) 長崎県庁長寿社会課様 (1人)
- 8/28 (月) 佐用町サンホームみかづき様 (7人)
- 9/11 (月) 全国ろう者理容協会様 (50人)
- 9/14 (木) 播磨町民生・児童委員協議会様 (26人)  
三木市吉川民生・児童委員協議会様 (23人)
- 9/15 (金) 丹波市氷上民生・児童委員協議会様 (45人)

## 8月・9月 ふくろうの暮らし



- 8/15 ふくろう大学料理講座
- 8/18 ふくろう大学ちぎり絵講座
- 8/19 地域交流会手話講座
- 8/22 ふくろう大学絵手紙講座
- 8/27 案山子づくり
- 9/4 ふくろう理髪店
- 9/15 ふくろう大学ちぎり絵講座
- 9/12 ふくろう大学書道講座
- 9/16 地域交流会手話講座
- 9/19 入居者懇談会
- 9/22 ふくろう大学料理講座

## 職員募集

生活援助員・ケアマネ・農作業援助員

第2回採用試験 9月30日(土)

お問合せは 淡路ふくろうの郷総務まで  
TEL 0799-25-8550 FAX 0799-25-8551

## 第12回ふくろうふれ愛まつり

今年のテーマは  
～淡路・中川原の歴史から学ぶ・明日を拓く～

ご協力をお願いします!

- 舞台出演者(ダンス・太鼓演奏・手話劇)
- 模擬店募集(B級グルメ・地元の伝統食等)
- ボランティア募集

ふれ愛まつり実行委員会事務局長 稲井 大悟